

久留米大学を受診した患者さんへ

「舌再建術後の機能に対するリスク因子解析」の研究に使用する情報について

この研究では、久留米大学を受診し、手術・検査の際に採取し保存されている以下の情報を使用します。

- 1) 期間：2009年1月から2013年12月
- 2) 受診科：形成外科・顎顔面外科
- 3) 対象疾患名：舌癌
- 4) 使用する情報：診療情報等

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承くださいませよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：久留米大学医学部形成外科・顎顔面外科学教室

研究代表者：久留米大学医学部形成外科・顎顔面外科学教室 講師 古賀憲幸

研究分担者：久留米大学医学部形成外科・顎顔面外科学教室 講師 王丸陽光

久留米大学医学部形成外科・顎顔面外科学教室 助教 森久陽一郎

久留米大学医学部形成外科・顎顔面外科学教室 助教 田中宏明

久留米大学医学部形成外科・顎顔面外科学教室 助教 吉田一暁

久留米大学医学部形成外科・顎顔面外科学教室 助教 植木翔也

- 2) 研究の意義と目的：形成外科では舌癌の切除後に舌の再建手術を行っています。しかし術後に経口摂取ができずに鼻などからのチューブで栄養摂取を行ったり、肺に食べ物が入るリスクのために首のチューブを抜くことができないことがあります。このような場合、患者さんの生活の質が著しく低下します。本研究の目的は、多施設間で過去に生じたこのような症例を把握して、そのリスク因子を明らかにすることです。これにより、これから行う手術の際に対策を講じることができるようになり、患者さんの生活の質を向上させることができると考えています。

- 3) 研究の方法：2009年1月から2013年12月までに舌癌の再建手術を行った症例のデータを収集し、研究グループへ送ります。全国から集まった400症例を検討してリスク因子を明らかにします。

- 4) 研究期間：平成27年06月倫理委員会承認後～平成28年06月30日

5) 上記の情報の使用を選定した理由：

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：調査より得られた情報を取り扱う際は、被験者の秘密保護に十分配慮します。個人情報には連結可能匿名化を行います。

7) 研究成果の発表の方法：本研究の結果は、症例の氏名等を特定できないようにした上で、学会や学術雑誌に公表することがあります

8) 利益相反：本研究に企業等は関与しません

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

久留米大学医学部形成外科・顎顔面外科学教室 講師 古賀憲幸

〒830-0011

福岡県久留米市旭町 67

(TEL) 0942-31-7569 (FAX) 0942-34-0834